

S I P 第 3 期「海洋安全保障プラットフォームの構築」 社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更について

令和 6 年 3 月 21 日
海洋安全保障プラットフォームの構築
プログラムディレクター 石井正一

今般、海洋安全保障プラットフォームの構築においては、研究開発計画の一部変更、研究実施体制の変更が生じたため、下記の社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更を行いたい。

1. 研究開発項目における変更点

- ① サブ課題 A の「レアアース生産技術の開発」では、最終年度における研究開発目標は維持するものの、2024 年度の「採鉱」計画において、採鉱機や海底作業機器等の改良を大幅に見直し、2025 年度の採鉱試験に最低限必要なものに絞るとともに、製作期間や納期を精査して、製作開始時期を極力遅らせる。

加えて「分離・精製・製錬」と「生産システム」でも、分離・精製・製錬のプロセス検討は、実験規模のスケールアップを含めて継続するものの、2025 年度末に予定している生産システムの実証設備・機器等の発注は極力遅らせ、2024 年度の進捗状況を勘案しながら、2025 年度の採鉱や分離・精製・製錬実証試験の規模を決定する。

- ② サブ課題 C の「海洋ロボティクス調査技術開発」は、2024 年度までに航行型 AUV のドッキングターミナルを試作し、航行型 AUV ドッキング実証機の開発を行う計画を、後年度計画とする。

- ③ サブ課題 D の「海洋玄武岩 CCS 基礎調査研究」は、昨年度に実施した拓洋第 5 海山の弾性波探査で未了に終わった測線データを、2024 年 4 月の弾性波探査で取得し、当初予定通りの 12 月の報告に間に合わせる。また、JOGMEC により今まで取得されていた拓洋第 5 海山の表層クラストコア試料等を活用し、海洋玄武岩 CCS に係る各種分析・基礎研究を進める。

以 上